

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(俊)ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともあります。あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。ICT(PC、ネットワーク、ウェブなど)をバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「PCは苦手、でもうまくりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、PC操作のどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。状況が許せば、施設見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。授業時間外の活動をおこなう場合、学生の任意参加とします。</p>
就職指導の方針	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
卒論の要件	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
学生への要望	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を“自立した人物”として扱います。“自立した人物”になれない、“自立した人物”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(雄)ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>ビジネスゲームの研究と制作</p> <p>商学・経済学系の大学における講義や企業の社員研修等でビジネスゲームが活用されています。ペーパータワーはチームビルディングを目的とした研修で活用されています。モノポリーは不動産ビジネスのボードゲームであり、ビジネス系科目の学習ツールとして有用です。これらのゲームは投資意思決定、機会費用等の経済学の基礎概念を学ぶうえでも役に立ちます。</p> <p>とはいえ、ほとんどのゲームはなんらかの学習に活用することを想定して開発されたわけではなく、研修を目的としたゲームも適用範囲は限定的です。たとえば、モノポリーは商業簿記の入門としては有用ですが、工業簿記の学習には不向きです。不動産の売買と賃貸のビジネスは、工業ではないからです。ペーパータワーはコミュニケーション、相互理解には資するとされていますが、その他の学習効果はあまり期待されていません。いずれのゲームも一長一短があるということですが、見方を変えれば、商学・経済学・経営学・法学の学習に資するビジネスゲームの改良・開発の余地があるように思われます。</p> <p>本演習は既存のビジネスゲームの研究からスタートし、商経学科での学びを総動員して、新しいビジネスゲームの制作を目指して活動します。おもしろくて、あきない(商い)ゲームをつくってみませんか。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>学生主体の自発的な運営が望ましいと思っています。本演習の大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ:既存のビジネスゲームの調査・分析 演習Ⅱ:新しいビジネスゲームの制作 卒業研究:ビジネスゲームを活用した学習効果の検証とレポート執筆</p> <p>過去に実施した課外活動として下記のものがありますが、参加は任意であり、成績評価には影響しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定対策の学習会 ・県大祭での模擬店経営 ・合宿、フィールド調査
<p>就職指導の方針</p>	<p>履歴書、エントリーシートの添削、小論文の対策等できるかぎりサポートします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの制作意図、概要、検証結果をまとめたレポートを書いてもらいます ・字数制限は設定しません
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことと思っても遠慮なく相談してください ・気持ちの良い挨拶を心がけ、ルールやマナーを大切にしてください ・SNS、サブスクに依存しないでください
<p>その他</p>	<p>本演習に関心のある方は気軽に研究室を訪ねてください。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

倉重ゼミ

基本テーマ	<p>このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルを少し高度に利用してみたりすることです</p>
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 I と II では、プログラミング(Excel VBA・Python)やデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ゼミ生の習熟具合や希望に応じて、ゲームなどのアプリ作成や機械学習(AIの一部)への取り組みも考えています。また、コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題などがあります。 ・卒業研究では、原則、演習 I II で学んだことに関係するテーマで卒論を書いてもらいます。 ・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します。
就職指導の方針	<p>就職活動に関しては、“自分のペースで活動したい”、“背中を押してもらいたい”など様々な人がいます。要望があればESの添削や面接練習などを行うことを前提にした上で、“暖かく見守る”、“週一で進捗状況を確認する”など皆さんの希望に応じた距離感で指導します。</p>
卒論の要件	<p>ゼミ運営方法にもある通り、原則、演習 I II で学んだことことで卒論を書いてもらいます。アプリの作成を卒業研究とすることも可とし、その場合は、仕様書やプログラムの説明を卒業論文と見なします。また、複数名で取り組むことも可とします。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること(経験はまったく問いません)。 ・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思います。 ・後期開講予定の統計学は受講していただけたら幸いです。
その他	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人 ・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません) ・フェルミ推定が楽しそうと思える人 <p>(フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレトペーパーのロール数、県短内で1年間に発生した消しカスの重量、県短内での1年間のタイピング数、県短の門を1年間に通過した人数などの推定)</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

瀬口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>私の講義科目である、マーケティング論や経営戦略論が基本テーマになります。マーケティング論では、「売れる商品と売れない商品は何が違うのか」、「ブランド力を高めるためにはどうすれば良いのか」、「海外で行うマーケティングは、日本国内で行うマーケティングと何が違うのか」などについて。経営戦略論では、「企業と企業はどのように競争しているのか」、「ライバル会社に勝つためにはどのような手段があるのか」、「企業の行動は社会に対してどのような影響を与えるのか」などの疑問について考えていきます。</p> <p>これらの疑問は、すぐに答えが出るものではありません。1年生後期の【演習Ⅰ】で基本文献を読み、マーケティング論や経営戦略論の基本的思考と理論枠組みを学びます。そこで得られた知識を、2年生からの【演習Ⅱ】と【卒業研究】のなかで、具体的な商品や企業に応用させていきます。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的に考察した研究もありました。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【演習Ⅰ】では、各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1～2章分を担当します。皆の興味が一致した場合は、ゼミで共通の本を指定します。自分が担当する部分のテキストを読み、他のメンバーにも理解できるようにレジュメとしてまとめます。そして、そのレジュメを基に、ゼミで報告してもらいます。 ・【演習Ⅱ】では、卒業論文作成に向けて、テーマの設定や章立て、資料探しなどを行います。 ・【卒業研究】では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。 <p>・過去のゼミでは、学生さんの希望に応じて、学内開放(学祭)への参加、食事会を含むゼミ内親睦会、工場見学などのゼミ旅行を実施してきました。</p> <p>ただし、こちらから無理に企画することはありません。皆さんからの希望を聞きながら、あくまでもゼミ生が主体となって計画・実行してもらいます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを可能な範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要とされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導するつもりです。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な範囲、すなわちマーケティング論やブランド論、経営学、社会学の一部(文化社会学、消費社会論、メディア論等)などに限ります。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで丁寧に指導していきますので安心してください。ただし瀬口ゼミでは、余裕をもって完成できるよう、卒論の準備を早目に進めていきます。また、目次や要約を除いた、本文の執筆期限をゼミ内で独自に設けています。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現時点での知識は問いません。また、私の授業の受講経験や専攻の違いなども、ゼミ選抜には全く関係ありません。</p> <p>ただし、①欠席する際は必ず事前に連絡し無断欠席をしないこと、②ゼミに関する指導や事務手続きについて、私から連絡があった場合には返信すること、の2点を守って貰いたいと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて、ささいなことでも質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。</p> <p>私に直接相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

宗田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 会計学の視点による中小企業の調査・研究 【概要】「鹿児島」の中小企業を考察対象として、ビジネスモデルや経営・会計について学びます。実際に企業を訪問したり、様々な体験をすることを通じて、会計の果たす役割を知ることができます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ(1年後期)「鹿児島のごい企業を発見！」 中小企業に関連する基本書を通読したり、企業の調査・分析手法について学びます。鹿児島の中小企業の中から、特徴のある企業を探してもらいます。(2024年度は、両棒餅の会社、お茶の会社、アイス等菓子メーカー、2025年度は出水のミカン農家さんを調査対象にしました。)</p> <p>演習Ⅱ(2年前期)：「何がすごいのかを探検、観察！」 個人ないしグループ単位で個別の企業を実際に調査分析をしてもらおうと考えています。(現2年生は、3～4名一組で活動中。温州ミカンを使った新商品開発に取り組んでいます。)</p> <p>卒業研究(2年生後期) 演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに成果物(卒業論文を含み様々な形態を認めています)の作成を目指します。</p> <p>ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。 「勉強の方法を学ぶ」、「知識・技術の習得」、「交流と協調」、「よく遊び、よく学ぶ」 なお、任意参加となりますが、税理士事務所、公認会計士事務所、中小企業などを訪問する機会を設けます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路であっても、可能な限り皆さんのリクエストに応えます。過去のゼミ卒業生は、公務員、金融機関、中小企業、大企業、進学(4年制大学、専門学校等)、起業(飲食店経営)、フリーターと多様です。 四大編入指導については、小論・面接等リクエストに応えますが、原則ゼミ生に限定しています。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>グループもしくは個人で設定したテーマに従って、卒業論文ないし卒業論文同等物を作成していただきます。 字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>積極的にゼミ活動に参加できる人。 希望する学生は、事前に、私と面談をお願いします。</p>
<p>その他</p>	<p>【担当者自己PR】 3号館3階に研究室があります。ゼミ選択について聞きたい、知りたいことがあれば、随時、来室してください(アポイント不要) 連絡先アドレス:sota*k-kentan.ac.jp (*は@に換えること)</p> <p>確実に研究室に在室している日程 水曜日:3, 4, 5限(ただし、毎月最終週は不在) 木曜日:3～5限</p> <p>予定が無ければ在室している日程 月曜日の全日、金曜日(ただし、第2, 3週は会議不在)</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

近間ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマ:人口減少下の社会政策と労働問題を考える 日本の生産年齢人口(15～64歳)は大幅な減少が見込まれています。そうした社会では、希少性が高まりゆく労働力をいかに有効に活用するかという方向性が模索されています。誰もが望ましい働き方を実現でき、働きがいと高めることができるためにも、既存の制度の見直しや労働環境の改善が求められています。 一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(家事、子育て、介護など)と働き方の関係性について考えていきたいと思ひます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思ひます。 演習Ⅰ:ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。 演習Ⅱ:卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらひます。 卒業研究:卒論の目次案、概要を報告してもらひ、実際に卒論を作成してもらひます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。 ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思ひます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。 また、ゼミ生の希望があれば学内開放での模擬店経営やゼミ合宿などの課外活動を企画したいと思ひます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思ひます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることでありますので、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思ひます。文字数は目安として10,000～12,000字程度とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。 ・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。 ・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。
<p>その他</p>	<p>ゼミについて興味がある方は、いつでも研究室(3号館4階)に来てください。ゼミの雰囲気や過去のゼミ生の卒論テーマなどを紹介したいと思ひます。不在の場合もありますので、メール(chikama@k-kentan.ac.jp)にてアポを取っていただければ確実かと思ひます。もちろん、メールのみでの質問もかまいません。</p>



2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

福田ゼミ

基本テーマ	<p>毎日、私たちは様々な外国に関するニュースを目にして、耳にします。こうした国際社会で起きる様々な出来事が、鹿児島で暮らす私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えたいと思います。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>1年半のゼミの流れとしては、以下のようなものを想定しています。</p> <p>【演習1】社会にある色々な意見に接してみる。ある問題に対しても、多様な意見があることを知る。そして自分の意見を他人に伝えられるようになる。 主に、新聞の社説の読み比べをしたり、読み比べについてのレポートを作成したりします。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【演習2】全員で読む本を決めて、その本について順番に報告してもらいます。卒論執筆に向けて、論文の書き方などについても学んでいきます。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【卒業研究】各自のテーマで卒業論文を執筆する。自分の卒論については、他の人からの意見を参考にして、他の人の卒論については意見を述べられるように練習します。</p> <p>希望があれば、課外活動なども行いたいと思っています(任意参加で、成績には一切関係はありません)。</p>
就職指導の方針	<p>要望があれば、履歴書やエントリーシートの添削等、面接の練習などを行います。それよりも、小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験(例えば海外ボランティアや旅行など)、他の人と違った経験をすることを勧めます。現在の2年生のゼミ生の1人は、2カ月間カナダのトロントに語学留学した学生がいます。</p>
卒論の要件	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>卒業後は、就職する学生が多いと思います。社会に出る前の1年半を使って、いろいろなことに積極的に取り組みたい学生をお待ちしています。</p>
その他	<p>何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

藤野ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>全国最先端の地域づくりを実践！ VRワールドや地域通貨を使った日置市の地域づくりに直接関わります</p> <p>人口減少が進む現在、地域づくりは限られた人口を奪い合うのではなく、「関係人口（地域と多様に関わる人）の増加」へと大きくシフトしています。実はお隣の日置市は、この関係人口政策で全国の最先端を走る自治体です。</p> <p>今年のゼミは、日置市地域づくり課とタッグを組み、VRワールド(ネオ日置)や地域通貨(まちのコイン)を使った関係人口増加プロジェクトに直接関わります。机上の勉強だけでなく、まずは私たち自身が日置市の関係人口となり、最先端の政策を体験しながら学びます。</p> <p>日置市の職員さんなど外部の方と協働するため、ゼミ活動では最後までやり遂げる「責任感」が必要です。また、結果ではなく、チームで試行錯誤したプロセスと一生懸命に取り組む姿勢を大切にします。</p> <p>将来、公務員を目指す方はもちろん、民間企業の企画系・IT系志望の方も、就活の履歴書(ガクチカ)に直結するような超・実践的な学びができます。リアルな現場で、将来につながるワクワクする経験を積みたい皆さんをお待ちしています！</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>【演習Ⅰ・Ⅱ】以下の内容です(卒業研究については「卒論の要件」参照)。</p> <p>① 本を読んで知識を入れる まず、関係人口関連政策に関する書籍を読みます。少し内容が難しいので、理解することが苦にならないように、グループで取り組むなど工夫して読み込みます。</p> <p>② VR空間での活動(マイクラのような世界でのゼミ活動) 日置市からゼミに長期貸与されたVRゴーグル(MetaQuest)12台を使ってVRワールド「ネオ日置」にアクセスし、ネオ日置上で市の職員さんと打ち合わせをしたり、ネオ日置を利用した関係人口増加のための仕掛けづくりをします。また、ゼミ独自のVRワールド建設作業も行います。マイクラの世界で打ち合わせをしたり、街を創り上げていくようなイメージです！IT系のスキルがなくても、ゴーグルの設定から丁寧に教えるので初心者も大歓迎です！</p> <p>③ 行政の最前線に関わる！日置市職員との協働 実際に関係人口政策を進めている日置市地域づくり課の職員さんや地域おこし協力隊の方が、要所要所でゼミに参加してくれる予定です。行政の最前線のリアルな話を聞きながら、一緒にプロジェクトを進めるため、公務員を目指す学生にとっては最高の実践の場になります。</p> <p>④ ゼミ合宿で他大学の学生と交流も！ 福岡へ行き、地域で活動する大学生と交流や共同作業をします。勉強だけでなく観光も交えながら、楽しく仲間との絆を深めます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>ゼミで一生懸命活動したことが、そのまま就活の強力な武器になるよう設計しています。履歴書添削、小論文や面接対策など、一人ひとりの希望に寄り添い手厚くサポートします。編入については、鹿大であれば法文(地域社会・法学)なら対応可。小論文勉強会や面接指導などを行います。資格はFP、宅建士、行政書士であれば指導可能ですが、商経学科では需要が少ないため、ゼミ生か否かに関係なく個別指導しますのでご相談ください。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>ゼミ生全員で一つの「ゼミ活動報告書」を作り上げます。VR上で「どんな企画」を「どう実践し」、直面した「課題」を「どう解決したか(解決すべきか)」について、みんなで資料収集や議論をしながら分担してまとめます(内容によりませんが、個人執筆も可能です)。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりや、ボランティア活動が好きな学生の参加歓迎。 ・外部の方とプロジェクトを進めるので、責任感は必須です。 ・授業外での活動が他のゼミよりも多いと思いますので、心づもりをしておいてください。
<p>その他</p>	<p>「こんなゼミ入るんじゃないかった！」ってことにならないように、必ず研究室訪問をお願いします。いつでも対応しますが、講義前など忙しいときは対応できないかもしれないので、事前にメール(fujino@k-kentan.ac.jp)で予約していただく和確実です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ネオ日置についてはこちら→</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゼミ活動についてはこちら→</p> </div> </div>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

船津ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>コミュニケーション能力、マクロ経済学を主とした経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員といった就職活動全般や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力になると考えます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになること(一文、一文を正確に理解すると同時に、文章全体の構成・内容を的確に把握し、その文章に示されている定義、結論に至るまでの根拠と論理を検証できるようになること)と議論できるようになることを特に重視して運営し、具体的な運営方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミを目指します。</p> <p>私からは、現時点では、毎回のゼミの最初の20分程度でゲーグルの研修プログラムを参考にしたコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを行い(面接対策にも有用と考えます)、その後の1時間強は、伊藤元重『マクロ経済学 第3版』日本評論社をテキストにマクロ経済学を学びつつ、学んだ内容と関連したニュース等について議論することを提案する予定です。</p> <p>マクロ経済学は公務員志望者、進学希望者、就職希望者、自分ででの起業を考える方等、どのような道に進んでも有用です。しかし、商経学科には経済専攻であっても基礎の「経済学」の後、マクロ経済学についてもミクロ経済学についても、さらに学べる科目が開設されておらず、学生の皆さんが独力で学習せざるを得ません。しかし、独力では、説明を受けてみれば簡単に理解できるところでもつまづきがちで(だからこそ大学の授業は意義がある訳です)、マクロ経済学についてさらに学びたいという声がよく上がりますし、私は非常勤講師として鹿児島国際大学でマクロ経済学Ⅰの講義を担当していますので、ゼミの主要なテーマにふさわしいものの1つと考えます。</p> <p>また、テキストの学習以外に数回、ディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論も行えればと思っています。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>ゼミ生の要望に応える形で指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。</p> <p>具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、志望大学に合った勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会で解説や質問に答えたりといったことをしてきました。</p> <p>二部ゼミで2年次に地方公務員試験に合格し、その後、公務員として勤務しながら学んで卒業した先輩が、面接や履歴書対策の資料を残してくれていますので、それも活用してもらおうと思っています。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、経済・社会に関することであれば基本的に自由です。</p> <p>過去の卒論のテーマには、地方財政(鹿児島県の財政分析、鹿児島県内の市町村の財政調整基金の動向の分析)、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化、鹿児島県の茶産業、鹿児島県と宮崎県の畜産業の比較等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較、出水市の観光戦略等)、地域防災(鹿児島市と宮崎市の比較、建設発生土問題)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析、鹿児島ユナイテッドFC等)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題、ブロック経済政策の歴史等がありました。</p> <p>ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意・不得意といったことは一切問いません。経営情報専攻でも全く問題ありません。</p> <p>ゼミの議論では積極的に発言してもらいたと思いますが、良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分ですし、そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。</p> <p>毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力やプレゼン能力、議論する力の向上に必ずつながっていきます。</p>
<p>その他</p>	<p>私に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうと確実だと思います。数人一緒でも大丈夫です。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)」と呼びかけてもらえると助かります。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

矢野ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>矢野研究室では大学で身につけるべき、読む力・書く力・つくる力をさらに養うべく、「経営情報」、「デザイン」、「スモールビジネス」をキーワードにゼミナール及び卒業論文の指導を行います。</p> <p>例えばSNSやソーシャルメディアに関わること、小規模事業者の経営とデザインについて、あるいは学生が自分自身で取り組んでみたいビジネスの事業計画書の策定も受け入れます。</p> <p>研究活動では大学SNSの運営状況とその効果について調査活動をする予定ですが、メンバー同士での議論によって進めていきます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>ゼミナールは学生主体の研究活動です。学生の主体性を尊重し、教員はサポート役という位置付けで運営をしていきます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>実務家としての経験から特に就職活動の支援に力を入れています。希望する企業・業界の分析や仕事の実態について、また、その先のキャリアデザインについて、現実に即したアドバイスができると思います。</p> <p>一方で小生は2026年に鹿児島に赴任しました。従って鹿児島県内の企業についてその都度調べながら対応をいたしますので、その点についてあらかじめご了承ください。編入学対策についても同様に蓄積したナレッジはありませんが、コーディネーターとして伴走支援をいたします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>論文形式であれば10,000～12,000文字とします。事業計画書の形式ではA4用紙10枚程度(収支計画含む)。</p> <p>その他、ウェブサイト等の動画メディアやSNS運用のガイドラインなど論文に代わる形式を希望する場合は相談に応じます。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>個人の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを原動力として、他のメンバーと議論を重ねながらゼミナールを運営していきます。学外でのフィールドワークの機会も設ける予定です。</p> <p>議論は時に衝突や摩擦を生じるものですが、しっかりと自分の意見を持ち、他者を尊重しながらそれを表現できる社会人になるために、積極的な議論とゼミナール運営への参加を期待しています。</p>
<p>その他</p>	<p>質問など問い合わせを歓迎します。</p> <p>研究室を訪ねるか、yano@k-kentan.ac.jpまで連絡をしてください。</p>

2026年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

山口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>〈地域経済の課題探求と分析〉</p> <p>大学での学びの基本は「問題」を自ら見つけ出すことにあります。そのためにこのゼミでは、①統計資料、②公表レポート、③マスメディアの記事、などを通じて、鹿児島県の地域経済の現状を学びます。さらに、ゼミ生の関心に応じてフィールドワークを実施し、自分事として取り組める「問題」を決め、分析・課題解決の提案を卒論でまとめてもらいます。</p> <p>また同時に、「本の読み方」、「議論の仕方」、「〈社会〉のとらえ方」など、共通文献の輪読を通じて社会科学の基礎力を身につけていきます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習1では、公表資料に基づく鹿児島県経済の回と、共通文献①の輪読の回を交互に行っていくのを基本とします。フィールドワークの準備、実行、振り返りもゼミ活動として行います。</p> <p>演習2では、各自がテーマとする「問題」を決定し、先行研究を調べて研究報告してもらいます。共通文献②の輪読も中間に複数回組み込んでいきます。</p> <p>卒業研究では、各自がテーマに基づいて一つの「問い」を定めて研究を進め、論文という形式でまとめてもらいます。</p> <p>演習1および演習2の最後には、それぞれ半年の成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>共通文献の輪読は以下を予定。 ①苅谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』講談社+α文庫 ②筒井淳也(2020)『社会を知るためには』ちくまプリマー新書</p> <p>上記はデフォルトの進め方ですが、ゼミ生の話し合いによって修正が出て問題ありません。ゼミはゼミ生みんなのものです。</p> <p>その他課外活動として合宿(最初期をイメージ。お互いの交流を深め、話し合いをしやすくする企画)、研修旅行(福岡、名古屋、東京などが候補)、懇親会等を行います(全て実施とは限りませんし、実施しても強制参加ではなく、任意参加です)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎり必要な支援もしますので、相談は遠慮せずに行ってください。</p> <p>支援の中身としては、編入試験の勉強会のチューター、志望動機の添削や自己分析の手伝いなどを過去行ってきました。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>具体的なテーマは指導の中で相談して決めていきます。字数はおおよそ12000字以上とします(図表込み)。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個々人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。 ・ゼミの課外活動については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。 ・自分の心身の健康を大切に。 <p>・その上で、ゼミでやってみたいことを恥ずかしがらずに表明して、責任者として実行していくという経験もぜひお勧めします。</p>
<p>その他</p>	<p>面談の希望があればメール(y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp)または直接予約をとってください。</p> <p>面談は研究室(3号館2階)で行います。</p>